

2018年度（2019年3月期）第1四半期決算説明会（電話会議） 主な質疑応答（要旨）

- ✓ 日時 : 2018年8月9日（木）17時30分～18時30分
- ✓ 当社出席者 : 常務取締役 竹内、取締役 古川

【全体】

Q) 米中貿易摩擦によるリスクはあるか。

A) 現時点では直接的な影響は出ていない。時計に関して、スマートウォッチは対象になるようだが、通常の時計は影響を受けないようだ。工作機械事業についても、中国生産分は中国向けがメインであり、影響はない。デバイス事業の一部部品については、米国向けの出荷があり関税を課されるものもあるが、全体に占める割合は少ない。間接的な影響は不透明であり、今後の展開を注視していく。

Q) 全社費用の昨年比増加要因は。

A) ディズニー公式時計スポンサー費用とその他費用等の増加。

Q) 在庫の増加要因について。

A) 時計事業のうち、完成品およびムーブメントの在庫が増えている。完成品については問題ないとみているが、ムーブメントは生産調整を行い対応していく。

【時計事業】

Q) 完成品中価格帯時計市場の回復状況は。

A) 緩やかな回復傾向は継続している。完成品だけでは増収増益であった。中価格帯も改善方向にあるが、市場毎に状況が異なる。

北米市場は小売流通が安定化しており、伸びている。北米市場ではマルチブランド戦略が効果を上げており、BULOVAも好調。また、セグメンテーション戦略も売上に繋がっている。中国市場は現地通貨ベースで大幅な増収となっており、アジア全体でも増収だった。国内市場は想定を下回っており、回復がやや遅れている。

Q) 広告宣伝費の実績状況と見通しについて。

A) 第1四半期は、創業100周年キャンペーンを実施したが、今後クリスマス商戦向けに更に加速していく予定だ。今後も、100周年をキーに世界的に展開していくが、市況を見ながら流動的に投資していく。

Q) 中国市場で単価上昇が見られている背景は。

A) 昨年までは若者向けの普及価格帯をメインとして、インターネット販売が伸びており、今年は加えて電波時計等の高単価商材を投入し、市場全体以上の売上拡大に結びついている。

【工作機械事業】

Q) 工作機械事業の受注水準と今後の見通しについて。今後、受注が減速するリスクはあるか。局所的にどこかの業種で変調は出ていないか。

A) 全エリアが好調であり、想定以上の推移だった。今後下向きになる可能性はあるが、足元は下向きになる兆しは出ていない。地域分散と用途分散を進めており、変動の影響は受けづらい体制にあるが、局所的に受注の変調がでてきていることもない。稼働状況はフル生産だが、今年度の業績については、いかに生産パフォーマンスを上げられるかに掛かっている状況。調達部品の段取りを行い、効率的に生産のアウトプットに繋げることに注力している。

Q) 工作機械 1Q の営業利益率が高かった要因は。

A) 通常よりも欧州・米州向けが伸長し、営業利益率が上昇した。

以 上